

## 宝達志水町荻谷地内不時発見横穴【荻谷テラジ横穴群】

石川県指定有形文化財岡部家住宅裏斜面横穴遺構について報告

宝達志水町教育委員会 生涯学習課文化財室

### 要旨

平成 25 年 9 月、集中豪雨後の翌日、岡部家西側斜面が崩落しました。

その災害復旧において近代の地下トンネルの存在が明らかとなり、関係機関との相談・現況把握後、平成 27 年 7 月より斜面の安全対策を行う事になりました。荻谷テラジ横穴群はこの安全対策中に発見されたものです。

以下、自然災害現場の復旧作業時に不時発見された埋蔵文化財への対応、遺跡保護について報告いたします。

### 経緯

#### 平成 25 年の集中豪雨

9 月 7 日～8 日朝方、岡部家敷地西側斜面が崩落、蔵 2 棟に被害。

9 月 9 日 県中能登農林森林部・土木部現地確認を実施。

#### 災害復旧

10 月 15 日～11 月 29 日、樹木撤去・土砂撤去・建物の修復。

斜面崩落への復旧工事中複数の地下トンネルの存在が明らかとなる。

12 月 岡部家後背斜面安全対策について関係機関に相談。

#### 平成 26 年

1 月 24 日、埋蔵文化財包蔵地「三日城」関連遺構の有無について分布踏査。

現況把握を含め、岡部家隣接傾斜地安全対策事業として 3 月補正に計上。

3 月 28 日、地下道測量・並びに安全対策工事設計を開始。

4 月 23 日・24 日 県文化財課、県中能登農林〈森林部〉・土木〈河川砂防課〉  
－岡部家斜面安全対策工事設計の指導・助言－

5 月 12 日 岡部家斜面安全対策工事設計書を関係機関に提示後、町 6 月補正  
予算に計上。

7 月 25 日 岡部家斜面安全対策工事契約。

8 月 18 日 県森林部から保安林内作業許可を得て、工事着工。

9 月 12 日 法面の安全傾斜角掘削の現地確認。

9 月 16 日 露呈した横穴の確認。

9 月 19 日 県教委文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地確認指導。

9 月 29 日～10 月 2 日 実測・写真撮影

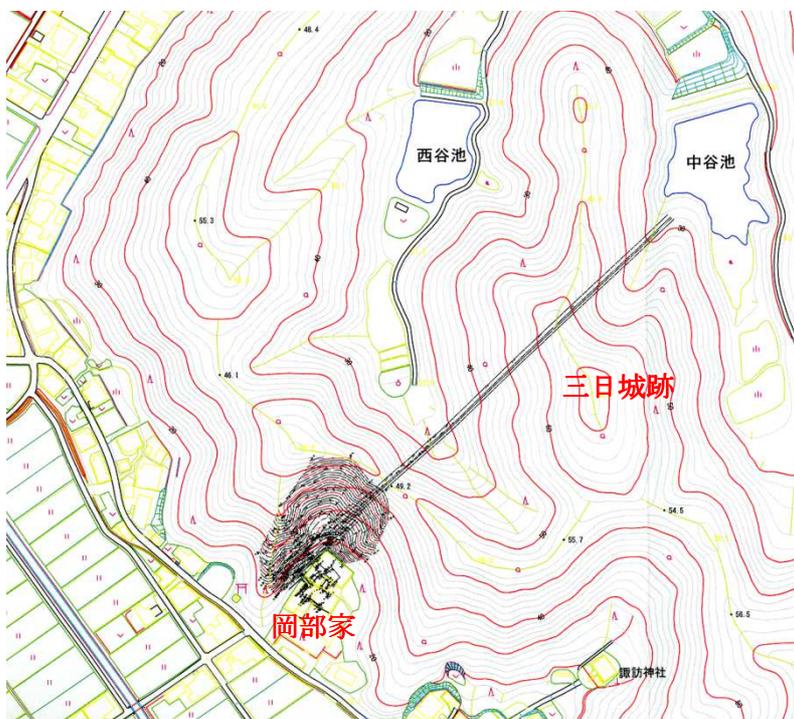
10月31日 横穴の保存措置立会い指導。

12月22日 岡部家後背斜面安全対策工事完成検査。

## 土砂崩れと地下坑道

聞き取りや地域史から、荻谷区域では大正から昭和にかけて、同様の地下道が多発掘削されており、瓦生産に伴う「釉薬」となる「石粉」を掘り出すために造られており、そのほかにも、横井戸と考えられるものも幾つか存在していました。

今回の崩落は、集中豪雨をきっかけとしていますが、実情は過去に斜面を削り植樹を行った後、50年以上経過した樹木の重量と、倒木の根跡に雨水が長年流入し、坑道天井部が崩落し続けていたことが遠因と考えられます。



【地下坑道測量図】北東方向に並行した3本の坑道跡が伸びる。

## 岡部家後背斜面安全対策工事实施設計及び工事

岡部家後背斜面安全対策工事を実施するに当たり、石川県指定文化財としての景観について、県教委文化財課の助言・指導を得ると共に、当区域が保安林並びに土砂災害特別警戒区域及び警戒区域に指定されていることから、中能登農林総合事務所森林部、中能登土木総合事務所河川砂防課より指導・助言を得て基本設計を業者委託として実施いたしました。



地下坑道内排水作業

### 土砂災害対策の安全傾斜角掘削工事中に出現した横穴



斜面の安全勾配造成作業中において、横穴墓とみられる遺構が発見され、工事を停止し、県文化財課の指導を仰ぎました。

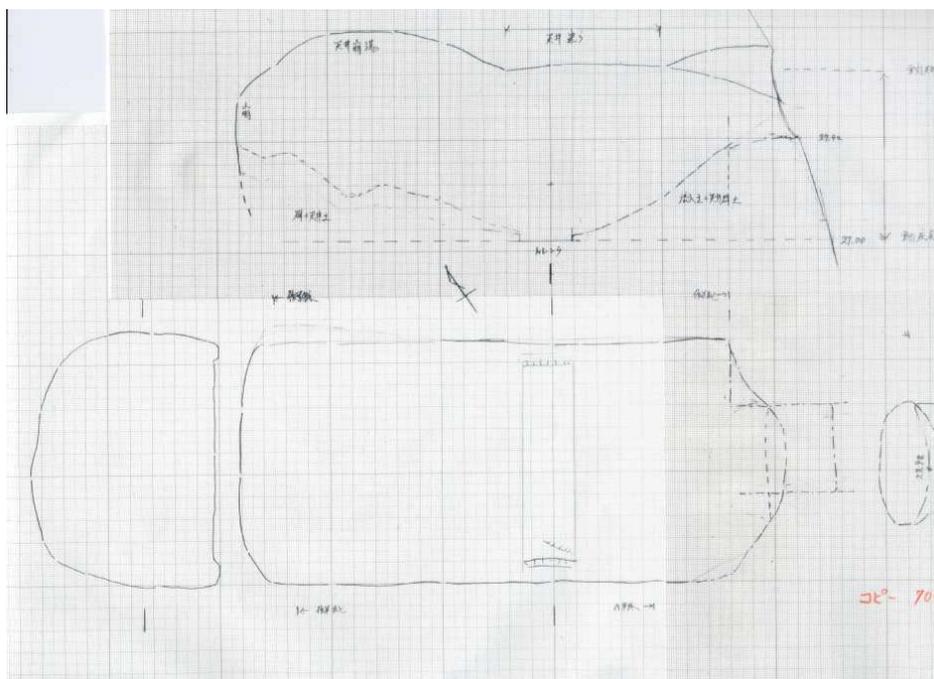
県文化財課並びに県埋蔵文化財センターの現地確認においては、掘削斜面で露呈した横穴以外にも、同様の横穴と考えられる遺構 1 か所、落ち込み 1 か所についての指摘を受けました。

町教育委員会は、文化財保護法に基づく届出を行い、横穴位置の測量、横穴内部の 1/20 実測を実施しました。横穴壁面の簡易実測作業は、外気が入った横穴内の乾燥が急激に進み、天井部が剥離し始めたため、写真撮影のみの実施といたしました。

### 斜面露呈横穴の考察〈荻谷テラジ横穴群〉

不時発見となった岡部家後背斜面安全傾斜作業前の検査では、横穴の入り口部分は崩落斜面からは確認できていません。また、露呈した横穴内へ続く通路遺構部分は埋め戻されていることから、一旦地表から縦方向に掘り下げた後、尾根方向に向かって掘り進められたと考えられます。

入り口部分の竪穴の一部は安全傾斜角形成工事時に削られてしまいましたが、幅 80 cm、横穴内部まで約 90 cmが残っています。なお、入り口断面での横穴床部の標高は 27.00m。不時発見時の開口部は 27.90m を計ります。



#### 【測量図】

横穴の主体部は、主軸が東南から北西に伸び、入り口は東南方向に開口し、黄褐色を主体とするシルト質土層に、幅 220 cm、高さ 156～160 cm、奥行きは 440 cm 〈崩落部分含む〉のかまぼこ型の空間を形成しています。

【横穴内部写真】



横穴実測状況



【壁面写真】 北側壁面

壁全体に残る掘削工具痕は、幅 10 cm～12 cm程度の隅丸状刃先の跡が遺され、多方向からの作業が伺われます。



横穴の入り口部分は、直角に成形された壁の一部が残っています。

この横穴遺構については、過去の志雄町史編纂に先立つ横穴古墳の発掘調査報告と比較して、室内の奥行きが深い事、かまぼこ型の構造を有している事などから、他県での事例から中世期の横穴の可能性が指摘されています。

中世期の当地域については、鎌倉期の志雄の武士として徳江氏の名が残されており、「1351年(観応2年)徳江石王丸ら越中の桃井軍と戦い、志雄保の所領を維持した」との記録から、徳江石王丸の居城とされる三日城跡の城郭遺構が尾根続きに現存しています。



左端が岡部家横穴、右端は三日城跡

### 岡部家後背斜面安全対策工事推進

横穴の天井部は、奥半分に入り込んだ樹木の根が入り崩れ落ちており、崩落土の下には、この遺構の時代を知る遺物の存在が推定されたますが、台風シーズンを迎え、岡部家後背の土砂崩れ対策工事を優先させる事とし、内部の発掘調査は実施いたしませんでした。

このため、これらの横穴について、将来的に発掘調査の必要性が生じた場合に対応ができるように、保存措置として斜面に開口した横穴については発泡スチロール材で閉鎖、外面に防水シートを設置し、その他の横穴についても法面保護措置を施しました。



【横穴入口、露呈部分の保護作業】

#### まとめ

8月17日の豪雨、台風19号・20号と短期間での襲来に、新たな土砂災害が心配されるなかで、県文化財課、中能登農林・中能登土木より適宜に助言・指導をいただき、斜面安全対策工事を12月中に完了する事が出来ました。

しかし、指定文化財の景観を含めた保護、来訪者の安全確保のための工事が、埋蔵文化財の保存保護に影響してしまった今回、自然災害現場での埋蔵文化財の不時発見に伴う遺跡保護の困難さを改めて考えさせられたことを記しまして、岡部家後背保安林内での防災工事中に発見された横穴群についての報告を終わります。